ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　96　号
2010．3．15

目　次

2010年度総会・研究大会の開催について……1
2010年度総会について
2010年度研究大会「オホーツク文化とは何か」
2009年度遺跡調査報告会の実施報告……2
2009年度定例研究会開催報告……2
事務連絡……4
会費納入のお願い
運営委員会からの報告

2010年度　北海道考古学会総会・研究大会の開催について

2010年度総会について

2010年度総会を研究大会の昼食休憩後に同一会場にて開催します。総会は会員が会の運営に直接参加する重要な機会ですので、多くの会員の皆様の出席を期待します。なお、やむを得ず欠席される会員は、必ず委任状を提出されるようお願いします。

日　時：2010年４月24日(土)　13：00～13：40
会　場：北海道大学　学術交流会館２階講堂（札幌市北区北８条西５丁目）

2010年度研究大会「オホーツク文化とは何か」

５世紀頃からアムール川流域、サハリンを故郷とする人々が北海道に渡来をはじめ、道北部―東部沿岸地帯、千島列島にいたる地域に「オホーツク文化」を展開しました。擦文文化やアイヌ文化にも影響を与えたとされるその文化とは何であったか、文化を担ったのはどんな人々だったのか。考古学や古人骨・遺伝子研究など多方面からの分析をとおしてその実像に迫ります。

日　時：2010年４月24日(土)　10：00～17：00
会　場：北海道大学　学術交流会館２階講堂（札幌市北区北８条西５丁目）
交　通：ＪＲ札幌駅北口　徒歩７分（北大正門から入るとすぐ左手に見えます）
＊駐車場はございません。公共の交通機関でお越し下さい。
内　容：
（午前の部）
9：30　開　場
10：00～11：20　基調講演「オホーツク文化とは何か」　天野　哲也（北海道大学総合博物館）
11：30～12：10　「アムール流域・サハリンとオホーツク文化」　臼杵　勲（札幌学院大学）
12：10～13：00　昼　食
（午後の部）
13：00～13：40　北海道考古学会総会
13：40～14：20　「北海道東部のオホーツク文化集落について―最近の調査成果から―」
熊木　俊朗（東京大学）
14：20～15：00　「オホーツク文化人の形態特徴と生活誌復元」　石田　肇（琉球大学）

15：00～15：40 「遺伝子からみたオホーツク文化人の特徴と起源」

増田　隆一（北海道大学）

15：50～17：00　討　論　＊司　会：菊池　俊彦（北海道大学）

※　報告のタイトルは変更される場合がありますのであらかじめご了承ください。

※　資料代として、1,000円（予定）を申し受けます。

※　研究大会終了後、懇親会を大学構内「きゃら亭」にておこないます（17：30～。会費は3,500円）。

2009年度遺跡調査報告会の実施報告

今年度の遺跡調査報告会は、2009年12月19日(土)に、北海道大学学術交流会館にて、およそ110名（うち一般の方61名）の参加のもと行われました。2009年に北海道内で行われた発掘調査は約80件に及び、その中から道内各地の旧石器時代からアイヌ文化期までの各時代・時期に及ぶ７遺跡の調査が報告されました。いずれも、今後の資料整理と報告書の刊行を通じ、調査事例としての活用が期待される発表でした。また、特別報告として、北海道大学総合博物館との共催で、北西オホーツク海沿岸部における調査実績について豊富な写真を用いての発表が行われました。なお、報告会終了後には恒例の懇親会が催され、会場では、発表された方々を囲んでの情報交換と交流が行われました。

〔発表遺跡〕　①北見市　北上４遺跡／②鶴居村　下幌呂１遺跡／③福島町　館崎遺跡／④札幌市　K39・C44遺跡／⑤利尻富士町　利尻富士町役場遺跡／⑥厚真町　富里２遺跡／⑦旭川市　立岩山チャシ跡

特別報告　初期鉄器時代の北西オホーツク海沿岸部における南部域との文化的関係について
—トカレフ文化を中心に—

2009年度月例研究会開催報告

今年度は月例研究会として７回の研究会を実施いたしました。月に一度の研究会としたのは、若い会員が自由に参加して活発に議論する場や環境を整え、それによって考古学への関心が少しでも高まり、北海道考古学会の一層の活性化を期待したいという趣旨からです。今年度は会員の発表のほか、10月に札幌稲北高等学校自然科学部に発表していただきました。また３月には卒論・修論の発表を予定しています。発表者の方々にはお忙しい中の発表に対し篤く御礼を申し上げます。また、貴重なご意見を賜りました参加者の方々に心より感謝申し上げます。

第１回月例研究会

○日　時：平成21年７月26日(日)　午後３：30～

○場　所：北海道大学　人文・社会科学総合教育研究棟W309室

○発表者：遠部　慎（北海道大学埋蔵文化財調査室）

○題　目：北海道における炭素14年代測定試料の諸問題—遺跡出土試料を中心に—

○要　旨：北海道では発掘調査に伴い、これまでに数多くの遺跡で年代測定例が蓄積されている。しかしながら、データ解釈や、測定資料のコンテクストや、各遺跡の傾向などのバイアスを考慮するケースは少なく、その利用にあたってはあくまで補助的という感を拭えない。本発表では、対雁２遺跡や北大構内の遺跡などの炭素年代測定の例を分析し、視点を変えてみるとどのようなことが見えてくる可能性があるのか、筆者なりの見解を示した。

第２回月例研究会

○日　時：平成21年９月27日(日)　午後３：00～

○場　所：北海道大学　人文・社会科学総合教育研究棟W309室

○発表者：守屋　豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室）

○題　目：縄文時代早期における「アルトリ式土器」変遷観の検討—伊達市有珠６遺跡での知見から—

○要　旨：縄文時代早期中葉の各土器型式の理解には、良好な状態で把握された層位的発見事例による検討、各遺跡を比較した類型種類の把握が必要であると考え、2000年～2005年に北海道の最古級の貝層が

発掘調査された、伊達市有珠６遺跡での層位的発見事例を概観し、他の遺跡（道央部を中心に）との比較をとおして、従来と異なる「アルトリ式土器」の変遷観と類型種類とを示した。

第３回月例研究会

○日　時：平成21年10月25日（日）　午後１：30～
○場　所：北海道大学　人文・社会科学総合教育研究棟W517室
○発表者：北海道札幌稲北高等学校　自然科学部
○題　目：北海道指定史跡「西崎山環状列石」を構成する岩石とその由来について
○要　旨：北海道指定史跡「西崎山環状列石」については、東大の駒井和愛（1959）の考古学的な調査・研究があるものの、本環状列石を構成する岩石の大きさ・形状・岩種やその岩石の由来については明らかにされていないことを、文献や専門家の説明によって知った。そこで付近の海岸を現地調査することによって本環状列石を構成する岩石について多面的に検討し、岩石のほとんどは余市シリバ岬から調達した可能性があることを解明した。

第４回月例研究会

○日　時：平成21年11月21日（土）　午後３：30～
○場　所：北海道大学総合博物館２階・中会議室
○発表者：内山　幸子（東海大学課程資格教育センター博物館学研究室）
○題　目：サハリンの動物考古学　―オホーツク文化を中心に―
○要　旨：サハリンには、北海道北部・東部と同様に、オホーツク文化が分布している。しかし、動物遺存体の分析が盛んに行われている北海道に対して、サハリンでは動物考古学的研究が少なく、動物利用の実態が捉え難い状況にある。

研究会では、サハリンにおける動物考古学の現状についてオホーツク文化を中心にまとめ、今後の課題について述べた。その最も大きな課題は、動物考古学におけるロシア人若手研究者の育成や日本人研究者との共同研究、それを受け入れる下地づくりを進めることである。また、定量的な分析の重要性を認識し実践することにより、はじめて日本の研究成果との比較検討が可能となる。

第５回月例研究会

○日　時：平成22年１月24日（日）　午後３：30～
○場　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517室
○発表者：村本　周三（総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史）
○題　目：縄紋時代中期と後期の境界　―東北地方北部から道東地域を対象として―
○要　旨：縄紋時代中期末・後期初頭は、東日本全域で集落の変質、土器の地方色の顕在化といった現象がみられる時期である。しかし、各地の発掘事例の蓄積は均一ではないため、その併行関係の解明は十分ではない。本発表では、火災住居跡の測定事例を中心に既報の14Ｃ年代測定結果を整理し、道東地域におけるトコロ６・５類の境界である3,850CalBC頃が東北地方における型式の画期とおおよそ一致することを明らかにした。

第６回月例研究会

○日　時：平成22年２月28日（日）　午後３：30～
○場　所：北海道大学　人文・社会科学総合教育研究棟W517室
○発表者：荒山　千恵　（北海道大学大学院文学研究科専門研究員）
○題　目：出土木製品の製作技術について
○要　旨：出土木製品の製作技術かかわる研究をテーマに、次の２つの事例研究の中間成果について発表した。
事例研究①：出土「琴」の復元製作―静岡市小黒遺跡・静岡市登呂遺跡から出土した「琴」を例にして。
事例研究②：石狩低地帯から出土した擦文・アイヌ文化の縦槌―札幌市サクシュコトニ川遺跡から出土した縦槌を例にして
※第７回月例研究会は、日時等確定いたしましたらホームページにてお知らせいたします。

会費納入のお願い

委員会では会計担当を中心に、未納会費の収納や収入の確保に努力しておりますが、未だ、楽観できない状況が続いております。会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年度内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認した後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358　　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　　（学部本科生）3,500円

運営委員会からの報告

新年度になりますと一般社団法人日本考古学協会（以下、日考協と略記）の理事並びに埋蔵文化財保護対策委員会委員（以下、埋文委委員と略記）が一部改選されます。これまでに北海道考古学会は、日考協の理事として大島直行会員並びに畑宏明会員を推薦・支援し、埋文委委員として瀬川拓郎会員を推薦してまいりましたが、共に今期をもって退任いたします。北海道考古学会と日本考古学協会との関係は、埋蔵文化財の保護に対する取り組みなどそれぞれの設立趣旨も共通するところから、例えば近年では鷲ノ木遺跡環状列石（森町）の現状保存に向けての連携にもみられますように、協調した活動を行ってまいりました。今後も埋蔵文化財の保護や活用に関する情報の交換を続けながら、節度ある良好な関係を保ちたいと考えております。以上のような主旨のもとに、本学会では次期の日考協理事として当学会の大谷敏三・川名広文両会員を、並びに埋文委委員として臼杵勲会員を推薦してまいりたいと思います。

最後になりましたが、今期まで日考協理事、埋文委委員を務められました畑・大島・瀬川各会員には、この場をお借りして御礼を申し上げます。

北海道考古学会だより　　第96号　　2010年３月15日　発行
発行所　北海道考古学会（HP：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局；〒060-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX（011）706-4000
E-mail；hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　（011）668－1131